

## 福島の子どもたちに会いたい

チームあたし@福島旭町キリスト教会 by かくのぶえ

震災から 5 か月。毎日、福島の子どもたちが気になって仕方ありませんでした。心を決めて「福島の子ども限定」でボランティア希望を出したところ、福島旭町教会付属のこひつじ幼稚園とこひつじ教育センターに行けることになりました。ひとりで行くから「チームあたし」、発足です。

8月24～27日の3泊4日、仕事内容は夏休みの子どもたちの学習指導。「夏休みの友」の〇つけ、読書感想文の指導（ちょうど我が家の小6男子に指導したばかり。助かった）、計算ドリル・漢字ドリル・カタカナドリルの〇つけなど。

換気扇をビニールで覆い、窓を閉め切った学習室には、朝8時すぎから1日に12～13名の小・中学生が入れ替わり立ち替わりやってきます。

3月10日にドリルを始めて8月25日に終了した小2男子は、震災の日もこのドリルをしていたそうです。日課の「お礼拝」

の中で小さなセレモニー。「おめでとう。よくがんばりました。震災の時もいっしょだったこのドリルは、記念に大切にしておきなさい」と教育センターの小久保信子先生。子どもたちと一緒に震災を乗り越え、毎日一緒に歩んでこられました。「暑いからぼーっとして



いる人もいると思うけど、放射能もみんなの頭をぼーっとさせます。ぼーっとして、ぼーっとして、病気になったらいけないから、病気にならないようにしっかりしてください。神さまの命令に従って、友だちを愛していきましょう」。この日のみ言葉からのメッセージ。課題のチェックをしたり、わからないところを教えたりして、用事が終わってもそばを離れずそのままおしゃべりに。「先生、僕のこと好き？」「好きだけど、ドリルをここまでやったらもっと好き」「わかった。がんばるよ」。

一通り課題が終わった子が、そばに来てしゃべります。「地震、雷、火事、おやじ。一番怖いのはおじさんだよ」「おじさんじゃないよ、津波だよ」「おじさんの方が怖いよ」「会津には鬼より怖いものがあるよ」「なにそれ？」「熊」。

お昼もおやつもゴロゴロタイム（DVDを見たり、お昼寝したり）もみんなで過ごします。

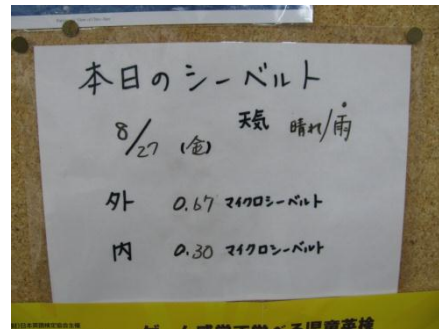
無邪気な子どもたちの笑顔とおしゃべりは、あたしが住んでいる横浜と変わりませんが、日々の放射線量は神奈川県平塚市と比較すると、屋外で約10倍、屋内でも約3倍。

17時過ぎから家事や仕事を終えた保護者が、お迎えにきます。帰る時はきちんとみんなにご挨拶。「ありがとうございました」「〇さん、さようなら。おつかれさまでした」。そして保護者一人ひ



とりに丁寧な対応。「放射能のことがあって保護者は不安を覚えています。子どもたちのこと、日々のこと。今、教会が悩みを受け止めて、いっしょに歩まなければ」。

最後にお迎えに来たお母さんが言いました。「(放射能は) 気になりますけど、気にしてもどうにもならないし、心配してもどうしていいかわからないし。もうどうにでもなれって気持ちにもなります」。すかさず先生が言います。「どうにでもなったらだめだよ。いっしょに乗り越えようよ。神さまがいるから。ね」  
あたしがこのお母さんだったら。あたしが福島で子育てしていたら。奥歯を噛んで涙をこらえます。



震災後、福島を離れる人が多く、幼稚園の職員も退職。人手不足のため、スタッフは一人何役もこなして走りまわっています。園庭の小屋にいたうさぎのモコちゃんも、今は保育室に避難しています。旭町教会の建物周辺と園庭は8月3日に除染され、9月からは園庭に子どもたちの笑顔が戻る予定だそうです。



旭町教会と幼稚園、教育センターには、引き続きボランティアが必要です。「チームあたし」も、また子どもたちに会いに行きたいし、今度は横浜に来てもらいたいです。少しでも放射能の積算量が減るといいと思うから。

音楽家の坂本龍一は、管総理大臣に頭を下げて「福島の子どもたちを助けてください」とお願いしたそうです。今、みなさんに頭を下げてお願いします。子どもたちが放射能の恐怖から守られますように、日ごとの祈りにつけくわえてください。人が造ったものに勝る力を持つのは、神さましかいないから。どうぞよろしくお願いします。  
追記。春日原教会からの祈りの贈り物と献金も届けましたよー。

